



# 子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動  
参加園月例会報  
(2022年10月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081  
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、  
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今年も「東北グリーンウェイブ」の東北のどんぐりが、参加園のところに届けられました。  
長引くコロナ禍の中で、子どもをとりまく様々な関係が断絶されがちな今だからこそ、  
“どんぐりの絆”を育む「東北復興グリーンウェイブ」の活動意義は、より高まりつつあると思います。  
今月号では、東北でどんぐりを拾う活動のレポートをお送りします。  
今年の東北のどんぐりも、大切に育てていただけることを願っております。  
\*写真は、宮古市の「あかまえこども園」の子どもたちが、園の裏山で拾ったどんぐりです。

(目次)

1. 「東北復興グリーンウェイブ2022」東北のどんぐりを拾う活動レポート1
2. 「東北復興グリーンウェイブ2022」東北のどんぐりを拾う活動レポート2
3. リレーエッセイ (2022年10月号)
4. 「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内

## ■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。  
しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

## ■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟	NPO法人 富良野自然塾
(公社)大谷保育協会	(公社)こども環境学会
保育環境研究所ギビングツリー	国際校庭園庭連合日本支部
(公社)国土緑化推進機構	(一社)日本森林インストラクター協会

郵便局の魅力を発信するメディア「JP CAST」は  
下記QRコードからご覧いただけます。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP cast



## 1. 「東北復興グリーンウェイブ2022」東北のどんぐりを拾う活動レポート1

2022年10月11日(火)に、「東北復興グリーンウェイブ」の活動における東北のどんぐりを拾う活動が行なわれました。今年の活動には、今春の苗木を植える活動同様、宮古市、山田町、大槌町、三つの市町の保育園・こども園が参加して行われました。どんぐりを拾った後、子どもたちは、「岩手県立陸中海岸青年の家」のインストラクターによる自然体験プログラム「アニマルハンティング」(\*注)を体験しました。子どもたちは夢中になって、動物の絵を探していました。

\*日時：2022年10月11日(火) \*活動場所：「岩手県立陸中海岸青年の家」の森 \*参加園(園児数)：宮古市「あかまえこども園」(12名)/山田町「とよまねこども園」(27名)、織笠保育園(14名)/大槌町「つつみこども園」(8名)  
\*協力：「岩手県立陸中海岸青年の家」 ★「あかまえこども園」では、事前に園裏山で拾ったどんぐりも持ってきてくれました。



みんなで、一生懸命どんぐりを拾いました。



拾ったどんぐりは、一か所に集めました。



アニマルハンティングの地図



地図をで動物の絵を捜します。



拾ったどんぐりは、子森ネットが受け取って、皆さんに届けます。

(\*注) アニマルハンティング：野山に隠してあるアニマルプレート(動物の絵)を、より多く見つけながら、自然の中で仲間との交流を深める自然体験プログラム。

## 2. 「東北復興グリーンウェイ2022」東北の苗木を見送る活動レポート2

岩手県奥州市の「駒形こどもの杜」でも、2回に渡ってどんぐりを拾ってくれました。以下、山下園長先生からのレポートです。

### 1) ぞう組（年長児）の活動

\*実施日：2022年10月5日(水) \*会場：岩手県立花巻広域公園（バス遠足）\*参加園児数：39名

宮沢賢治作の「どんぐりと山猫」の絵本の世界を楽しんでから、遠足へと出かけました。童話の世界のモニュメントがあちこちにあり公園内を散策して遊んできました。遠足当日の朝、「どんぐり博士」からの手紙が届き（?!）、バスの中でどんぐりミッションを頼まれたことで、どんぐり拾いにも気合が入り、秋の公園でたくさん遊んできました。



### 2) ばんだ組（年中児）の活動

\*実施日：2022年10月13日(木) \*会場：奥州市内の堀ノ内公園へ（徒歩遠足）\*参加園児数：41名

市街地にある公園を目指して、街中を歩いて公園へ行きました。どんぐりや木の実を拾ったり、虫をつかまえたりと、秋の自然にたくさん触れて遊んできました。



### ※今年も、東北のどんぐりを送りました。

ご覧のように、今年も東北の子どもたちが、“想い”を込めてどんぐりを拾ってくれました。東北のどんぐりは、既に、「東北復興グリーンウェイ」の参加園にお送りしました。子どもたちの“想い”を受けとめ、苗木に育てていただくことを願っております。（写真：「駒形こどもの杜」の子どもたちから、拾ったどんぐりが、子森ネット塚原代表に手渡されました。）



### 3. リレーエッセイ (2022年10月号)

幼児(少)期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩 (あゆむ) 先生によるリレーエッセイ7回目の連載です。今月号は、多様な自然体験が育む心身の機能についてです。

#### 自然体験への期待～心身の機能が発達・維持される体験

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



平らな土や芝生の上を目をつぶって真っ直ぐに歩いてみると、普段は何も意識することなく歩ける所なのに真っ直ぐ歩けなかったり、思ったよりでこぼこがあると感じたりします。このことは、自然の中は室内のような完全な平面ではないことを感じさせます。視覚が遮断されると、脳は目からの情報を自動的に処理して動きを調整したり、でこぼこのような危険を無意識に回避したりすることができなくなります。逆に考えると、私たちは外部の状況に合わせて、普段はあまり意識しなくても体の安定性を保ったり危険を回避できたりしていることがわかります。

自転車に乗れるようになる過程をイメージすると理解できるかと思いますが、バランス感覚なども練習(学習)によって獲得されるものです。つまり私たちの脳は、視覚情報にあわせた行動の仕方を“いつのまにか”学んでいたこととなります。しかし自転車の練習と違って、私たちは「でこぼこ道を歩く練習をしよう!」と意気込んで練習するようなことはしていないと思います。では、歩いたり走ったりする時にも必要な“バランス感覚”や“危機回避能力”は、いつどうやって身につけることができたのでしょうか?



みなさんの記憶にはないかもしれませんが、こうした運動機能の発達が促進される場面は、おそらく日常的な自然の中での遊びにあっただけと思われず、自然の中は多様性に満ち溢れていますが、それは色や形だけでなく、足元や空間にあるものの配置にもいえます。子どもたちが遊ぶ自然は、たとえ毎日同じ場所だとしても、地面が変化したり渡り鳥が来たりする「常に変化する遊びの空間」です。同じ状況を保つ人工的な室内などでの遊びと自然の中での遊びの違いはそこにあります。自然の中で遊ぶ子どもたちは、毎日変化する状況の中で知らず知らずのうちにバランス感覚を鍛え、筋トレを行い、危機管理能力や五感のとぎすましを行っているのです。このように、自然の持つ「不規則性と変化」という多様性が、子どもたちを日々鍛えてくれています。

#### 【筆者近況】

北海道では紅葉シーズン真っ盛り。ハクチョウなどの渡鳥の大編隊も連日訪れて、湿地や田んぼで休憩している姿を見るようになりました。朝晩は5℃以下の日も珍しくなくなったので、そろそろ霜が降りるころです。山の上では初雪の便りも聴かれるようになりました。私の車も冬タイヤに履き替えました



### 4. 「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内

J P 子どもの森づくり運動では、「国際校庭園庭連合日本支部」との共催で、多様な園庭緑化・自然化、さらに地域資源の活用等を学ぶオンライン講座を年4回開催中です。12月講座は、今年度4講座の最終講座です。受講費は無料ですが、受講者数が限られております。(先着30名) 各定員間近となっておりますので、ご希望の方は、ホームページから、急ぎお申し込み下さい。

【12月講座】園児と自然の生きものが出会う空間の作り方・使い方

\*日 時：2022年12月20日(火)14:00~15:30

\*講 師：(公財)日本生態系協会 教育研究センター センター長 田邊 龍太(たなべ りょうた) 氏

\*申し込み締切り：2022年12月12日(月)

